



ヘアドネーションに参加  
なかつかしおね  
中塚汐音さん  
Vol.35

リビングに差し込む日差し。つややかな黒髪が、優しく左右に揺れました。前髪以外、誕生日から伸ばし続けた髪は腰まで達し、2月に迎えた5歳の誕生日に初めてカットしました。医療用ウィッグに活用してもらおう「ヘアドネーション（髪の毛の寄付）」のためです。ヘアカットを控えた汐音さんに、苫小牧市内の自宅で話を聞きました。

## 医療用ウィッグのために黒髪を寄付

汐音さんは、母親で保育士の和美さんと一緒に自家用車で約1時間かけて宮の森こども園に通っています。和美さんは、2年前に保育環境に魅かれて同園に転職しました。感受性が豊かな優しい子。「こども園でも、まるで自宅に居るように素顔で過ごしているみたい」と和美さんは目を細めます。積み木や塗り絵、音楽を聞くのが大好きで、園庭で遊ぶ時には、保育士に髪の毛を束ねてもらいます。髪の毛の長さは56cm。「困っている友達に髪の毛をあげるんだよ。はにかみながら教えてくれました。」

ヘアドネーションは、米国で始まった慈善活動で、ヘア（髪の毛）とドネーション（寄付）を掛け合わせた言葉です。親類の子が髪の毛を提供したこともあり、両親は汐音さんの誕生を機に「困っている人のために協力しよう」と活動への参加を決めました。医療用の人毛ウィッグは、オーダーメイドです。病気が事故などで必要としている18歳未満の子どもにも活動団体を通じて無償提供されます。最低31cm以上の長さが必要で、ウィッグ1個を作るのに一般的に約30人から50人分の髪が必要といわれています。

昨年、こども園で飛べなかった縄跳びに悔しさを覚えました。「お家に帰ってきてね、たくさん練習して飛べるようになったの。今は楽しいよ。鉄棒だってできるようになったんだから。」目標を達成する喜びもこども園で学びました。

初めて経験するショートカット。「楽しみだけど、どうかな？」とつばやきながら、色鉛筆でお絵描きを始めました。虹や時計の文字盤など、紙いっぱいに描きました。好きな色を聞くと「水色！」と元気に答えが返ってきました。「こども園のお空の色だもん。小さなお友だちにも優しくしてあげるんだ」。